



かわにし 70 年

なつかしの写真展

ー川西市制 70 周年プロジェクトー

川西市は 2024 年に市制 70 年を迎えます。

川西市が市民にとって「大切なまち」であり続けることを目的とし、100 周年のミライを見据え「笑顔つづくミライへ。」をテーマに様々な事業を実施します。「なつかしの写真展」では、市制 70 周年を記念して川西の過去を振り返る写真展を年間通して市内の様々な場所で開催します。当時の人々の暮らしや街の様子などの貴重な歴史・文化を記録し、未来に向けて後世に伝えます。

ー市制施行ー

川西市は昭和 29 年（1954）8 月 1 日に川西町・多田村・東谷村の 1 町 2 村の合併により市制施行

市制施行当時の人口は 33,741 人、世帯数は 7,490 世帯であった。

初代の川西市役所は旧川西町役場の建物が転用された。市制施行後間もなく新庁舎（2 代目）の建設が始まり、昭和 32 年（1957）に小戸字荘ノ後（現中央町 1 番 1 号）に地上 3 階地下 1 階建ての新庁舎が竣工した。現在の庁舎は 3 代目で平成 4 年（1992）に竣工している。

ー産業ー

市制施行当時の川西市の主な産業は農林業であったが、明治から昭和期にかけて反映した工業が皮革と染色であった。このふたつの産業は川西市に沿うように流れる猪名川の豊富な水量を生かして、皮革と染色の工業が盛んとなった。

【皮革産業】

皮革工場が多く建ち並んでいた場所は現在の火打地区である。明治時代には火打村で 36 戸がなめし革製造に従事しており、牛や馬の皮革生産に加え筆毛加工も行っていた。高度経済成長期（昭和 30 年代）には 90 余りの事業所があり皮革生産は活気にあふれていた。

また、皮革製造には大量の水を使用することから猪名川沿いの火打地区は恵まれた産業立地であった。

そんな皮革産業も海外製品との価格競争などにより次第に衰退し、平成 17 年（2005）を最後に工場が閉鎖され長きにわたって繁栄した皮革産業が幕を閉じた。

【染色産業】

染色産業は大正期に始まり、「印染」と呼ばれる技法で生産されていた。染料での着色後に細長い染布を猪名川で洗い流し、色とりどりの布を河原に並べて干していた。その風景は当時の市民にもよく知られていたといわれている。市域の染色工場は鶯の森から絹延橋付近の猪名川沿いに並んでおり、主に国旗や幕、布団の生地などが染められていた。しかし、昭和 30 年代から 40 年代あたりにさしかかると、川西市では工業地よりも住宅地としての評価が先行したため、工業が大きく発展することなく染色産業も衰退してしまった。

ー満願寺ー

川西市の中心市街地から北西に約 2 キロの山中にある満願寺の所在地は、周りが宝塚市に囲まれた「飛び地」である。満願寺は奈良時代に開創され、多田神社とのゆかりも深い。満願寺町は明治時代の町村合併の際に「多田村」へ編入し、その後の合併で川西市となった。

境内には国指定の九重塔をはじめ多くの仏像や石像物が今も残されている。本堂内には平安時代のものとされる十一面観音菩薩立像や聖観音菩薩立像、観音堂には千手観音菩薩立像があり、いずれも県指定文化財となっている。

現在の本堂は承応 2 年（1653）建立で、観音堂は寛文 8 年（1668）奥の院に建立されたものを明治 17 年（1884）に現在の場所に移築した。山門は明治 14 年（1881）の建立で、門内の金剛力士立像は、明治時代の神仏分離の際に多田神社から移されたものである。

最盛期には、本坊のほか 49 院もの小院があり、源満仲公以来源氏一門の祈願所であったといわれている。境内には昔話「金太郎」で有名な坂田金時の墓がある。

※掲載している写真は川西市が所有するものです。

開催場所・期間（予定）：

①川西市役所（屋内）	1 月 15 日～12 月 27 日
②多田神社（屋外）	3 月 4 日～4 月 14 日
③キセラ川西プラザ（屋外）	4 月 2 日～12 月 27 日
④川西市立ギャラリーかわにし（屋内）	7 月 31 日～8 月 12 日
⑤けやき坂中央公園（屋外）	9 月初旬～10 月中旬
⑥川西市郷土館（屋外）	10 月中旬～11 月下旬



なつかしの写真展 市 HP

川西市 70 周年事業 特設 HP



■いずれも鑑賞無料になります。 ■開催場所や期間は現状の予定となりますので、変更する可能性があります。

■詳しい開催場所や期間・時間等については、市 HP（右記の二次元コード）から発信しますので、ご確認をお願いします。

主催：川西市 問い合わせ先：川西市市長公室 市制 70 周年記念事業事務局 072-740-2034（直通）